（第２号様式）　　令和６年４月１日

神奈川県教育委員会教育長　殿　　県立横浜氷取沢高等学校長

令和５年度　学校評価報告書（~~目標設定・~~実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係評価（３月19日実施）	総合評価（３月29日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	①基礎的な知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成を目標とした授業実践を行う。 ②生徒の国際的視野を一層広げ、グローバル人材を育成するため体験活動を活用した実践的な国際教育を充実させる。 ③生徒主体の学校行事や生徒会活動を通して、豊かで幅広い人間力を養う。	①校内の ICT 機器と生徒のタブレット等を円滑に利用し、学習コンテンツを通じて、生徒の協働学習や主体的に学習に臨む姿の育成に活かしていく。学習支援アプリ等を有効活用し個別の学習状況に合わせた教育を実践する。 ②-1 グローバル教育研究推進校として、「グローバル人材に求められる資質・能力」を育成する。 ②-2 外国語教育の充実や様々なやり方による姉妹校交流等、積極的に国際社会へ参画する力を育成する。 ③-1 生徒主体の学校行事となるよう支援する。 ③-2 活動の成果を昇降ロモニターやHP等で共有し、生徒相互・保護者・地域の理解につなげる。	①学習支援アプリ「ロイロノート・スクール」などを活用し、主体的で協働的な学びや個別の学習状況に合わせた学びを実践し、実績をつくる。職員対象の研修会でこれらの実績を確認しスキルアップに資する。 ②-1 全教科で取り組む「校内研究授業テーマ」を設定し、研究テーマを踏まえた授業改善と公開研究授業を行う。 ②-2 姉妹校等との直接交流の再開を図りながら、引き続きオンライン交流により多くの生徒が国際交流に関わる機会をつくる。 ②-2 日常的に「話す」活動を積極的に取り入れ、スピーチコンテスト・プレゼンテーションコンテストの質的向上を図る。 ②-2 2年生の発表を1年生にも視聴する機会を設け、次年度の発表の内容の向上を図る。 ③-1 行事の実施において、生徒が主体的に運営に携わりPDCA サイクルを回すことができるよう、委員会生徒を指導する。 ③-2 多くの教職員が HP の更新を行い、学校行事等を HP や動画配信を利用して紹介する。	①学習アプリ等を利用し主体的で協働的な授業実践、学習状況に合わせた学びが行われたか。また、研修会でその内容が確認されたか。 ②-1「校内授業研究テーマ」を設定し、教科横断的に授業改善に取り組むことができたか。 ②-2 直接交流やオンライン交流により国際理解教育がより充実したものになったか。 ②-2 直接交流やオンライン交流に参加した生徒の満足度や達成感が向上したか。 ②-2 スピーチ・プレゼンテーションコンテストを通じて英語の力が向上したと感じた生徒が増加したか。 ③-1 生徒が主体的に行事運営を行うことができるよう指導をできたか。 ③-2 本校の HP のアクセス数が増加したか。	①学習アプリの授業内活用状況は授業の基盤として定着できた。教職員向けに基本的な活用の研修会を行った。 ②-1 グローバル教育研究推進指定校として公開研究授業を実施した。 ②-2 韓国姉妹校に８月訪問交流を実施した。 ②-2 12 月に韓国姉妹校からの訪問があり、相互訪問が再開した。 ②-2 フィリピンの高校ともオンライン交流を実施した ②-2 オーストラリアと NZ は引き続きオンライン交流を実施した。 ②-2 スピーチコンテスト・プレゼンテーションコンテストを例年通り実施した。生徒の発表のレベル向上が見られた。生徒向けアンケートを実施し、概ね良好な結果を得られた。 ③-1 生徒が主体的に行事運営を行うことができるよう指導できた。 ③-2 HP の部活動情報に更新頻度の課題がある。 ③-2 昇降ロモニターを使って様々な情報を発信することができた。	①協働的な授業実践において、学習アプリは効果的である。教職員の授業づくりをサポートする形の研修を行う。 ②-1 今年度のグローバル教育の取組を、紀要としてまとめていく。 ②-2 オーストラリア、ニュージーランドに加え、フィリピンの高校ともオンライン交流を実施したため、交流内容の検討が必要である。 ②-2 １年生に対しスピーチコンテスト・プレゼンテーションコンテストの具体的な目標レベルを示すことができた。今後もアンケートを実施し、取組の検証を行う。 ③-1 来年度の行事計画について委員会生徒と協議する。 ③-2 HP の部活動情報更新を大会等毎に呼びかける。昇降ロモニターに掲載する情報に活用する。 ③-2 HP の更新頻度を上げるため、HP 更新に携わる人を増やしていく。	①学習支援アプリ等、ICT 機器を単なる検索ツールで終わらせることなく、学習への思考を深めるものとして活用してほしい。 ②-2 姉妹校等との直接交流は、体験的学習の面でも効果が高い。引き続き、他の姉妹校等との直接交流を実現してほしい。 ②-2 スピーチコンテスト・プレゼンテーションコンテスト等を通じて、生徒の思考力・表現力の育成に活かしてほしい。 ③-2 部活動等の成果をはじめ、学校全体の教育活動の発信は、学校理解に有効である。	①学習アプリを効果的に活用できた。 ②-1 グローバル教育の取組を紀要でまとめた。 ②-2 姉妹校との直接交流を実現した。 ②-2 オンライン交流を継続して実施した。 ②-2 スピーチコンテスト・プレゼンテーションコンテストの質的向上を図ることができた ③-1 生徒主体の行事を実施することができた。 ③-2 校内の情報発信として昇降口にモニターを導入した。	①授業づくりに資する研修会を工夫する。 ②-2 姉妹校等との直接・オンライン交流を次年度も計画・実現する。 ②-2 1学年と2学年の合同のスピーチコンテスト・プレゼンテーションコンテストを計画する。 ③-2 HP の担当者を明確にし、組織的に更新頻度の向上に努める。
2	生徒指導・支援	①生徒一人ひとりに寄り添い、生徒理解にたった支援、相談体制を充実させる。 ②部活動の活性化を通して連帯感や責任感の涵養を図る。	①SC,SM,SSW 等の専門機関と連携した組織的な取組みを推進し、生徒理解に基づく生徒指導、生徒支援により、生徒の自律心や人権意識の向上につなげる。 ②活動の成果を生徒相互に広く認知させることで自己の成長や他者の活動を認め、学校生活の充実感を実感させる。	①-1 生徒向けの講演会や集会を通じて、生徒の自立心や人権意識を高める取り組みを実施する。 ①-2 生徒の個別の課題の正確な把握、職員間の情報共有を踏まえた、支援策をたてる。 ②部活動の大会結果報告や活動実績等を、昇降ロモニターにて共有し、応援やコミュニケーションに繋げさせる。	①-1 本校生徒の課題に対応した効果的な取り組みが実施できたか。 ①-2 適切な支援策の検討と実施がなされたか。 ②-1 生徒相互の活動の様子を効果的に発信及び客観的に把握することができたか。 ②-2 目標の観点から適切な情報発信が行えたか。	①-1 県主導の「かながわ子どもサポートドック」を実施した。生徒個々の課題把握に活用した。 ①-2 コア会議に S メンター、SSW を加え、より綿密な支援体制とした。より踏み込んだ多様な視点を基に支援策が話し合われた。 ②-1 部活動の大会結果等を昇降ロモニターで情報共有できた。 ②-2 昇降ロモニターの活用に課題が残る。広範囲な情報提供のツールとして組織的に運用したい。	①-1「かながわ子どもサポートドック」の設問及び回答の検証が必要である。 ①-2 勤務日違いのＳＣとの連携に工夫がいる。コロナ禍の影響とも考えられるコミュニケーションを苦手とする生徒が目に付く。生徒間の感情的もつれを起源とするメンタル事象が多い。 ②-2 部活動生徒や生徒会と連携し、生徒中心の行事等の運用を模索	①-1「かながわ子どもサポートドック」の機能が生徒支援の一助となることを期待する。 ②-2 生徒による企画・運営する学校行事は、生徒の自己肯定感につながる。粘り強いご指導をお願いする。	①-1「かながわサポートドック」は課題把握に効果的であった。 ②-2 生徒主体の行事を実施することができた。生徒の達成感につながった。	①-1「かながわサポートドック」の設問を精査し、より生徒の実態に沿ったものを研究する。 ②-2 昇降ロモニターの一層の活用を図る。

							したい。			
3	進路指導・支援	①社会との関わりや自己の在り方について、主体的に考える態度の涵養を図り、自己実現につながる進路選択となるような手立てを講ずる。	①生徒の「探究的な学び」のスキルを高める。 ②教職員全体の進路支援スキルを高める。 ③グループ業務の円滑化、効率化をはかる。	①「総合的な探究の時間」において、生徒に探究的な学びのプロセスを周知させ教科を超えた学びのスキルとして活用させる。 ②外部機関を活用し、進路グループメンバーを中心として、学年会等において、教職員向けの研修を実施する。 ③グループ業務分担のチーム化を図り、メンバー相互の連絡調整や業務管理を円滑にする。	①「総合的な探究の時間」における各学年で設定した目標が十分達成できたか。 ②外部機関とよく連携し、各学年生徒の発達段階に応じた進路指導が計画通り実施できたか。 ③業務分担のチーム化により、業務の円滑化、効率化が図れたか。	①学年を中心として、生徒の進路選択への意識付けに資する説明会、講演会等を実施した。日常の学習やグローバルな課題と自己の生き方との関連を踏まえた学びの指導を行えた。 ②外部機関を講師に迎え、生徒の学習到達度等にかかる分析結果について職員研修を実施した。 ③学年進行で生徒の進路意識を高める説明会・講座等を計画し、進路実現に向けて生徒のニーズに応える機会とした。	①入学時から卒業まで終始一貫して、生徒ひとり一人の「生き方･在りかた」を生徒に問いかけていく指導を本校の進路指導の特色として醸成していきたい。 ②生徒の学習到達度を踏まえた進路指導計画を構築したい。 ③３年間の進路計画を踏まえつつ、業務分担を適切に行い、相互連携を図りながら効率よくかつ生徒のニーズに応える進路指導を行っていく。	①学年ごとに必要とする進路指導がある。３年間を見通した計画により、生徒のニーズにあった指導をお願いする。 ②外部模試の結果を活用し、日ごろの学習指導の参考とするべきである。	①学年を中心に各種説明会、講演会を実施できた。 ②外部模試を２回実施できた。	①進路結果をデータ化し、進路指導に活かしていく。 ②模試の結果を指導の一つに活用し、進路結果との相関性について究する。
4	地域等との協働	①家庭、地域の教育力を活用し地域との交流活動を通し、生徒、保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりをめざす。	①-1 学校運営協議会の機能を活用し、生徒と地域との交流活動を推進する。 ①-2HP 、 X （旧 Twitter）等の広報媒体を充実させる。	①-1 対面での会議を開催し、交流事業等の具体的実現を図る。 ①-2HP の更新を増やす。X（旧 Twitter）による広報活動を行う。	①-1 対面での会議を開催できたか。交流事業を実現できたか。 ①-2HP の更新回数が、令和４年度に比べて増加したか。 ①-2 X（旧 Twitter）による情報発信が安定的に実施されているか。	①-1 学校運営協議会委員を対面で実施した。地域清掃や大学の留学生との交流会を実現した。 ①-2HP の更新回数に大きな変化はない。更新回数を増やす工夫が必要である。	①-1 中学、大学との校種間交流を、さらに推進したい。 ①-2 X（旧 Twitter）の更新頻度向上の方策を引き続き検討する。	①-1 地域清掃等、地域活動に協力いただいた。 ②HP 更新は、あまり気負うことなく行うことで継続できる。	①地域連携部会を通じて、地域合同清掃活動に参加できた。	①学校を拠点とした地域連携を模索する。 ②HP、X（旧 Twitter）の担当者を明確にし、組織的な運営を図る。
5	学校管理 学校運営	①安全・安心な学習環境の維持に努め、点検・改善に努める。 ②信頼・信用ある学校経営に努め、事故不祥事根絶に向け、強い決意をもって臨む。 ③教員のワークライフバランスを推進するために、教員の働き方改革を推進する。	①-1 生徒の防災意識を高める教育機会をより充実させる。 ①-2 校内美化に努め、資源の有効活用等、環境意識を高める取り組みを行う。 ②-1 日頃から、職員間の情報共有を図るとともに事故不祥事防止会議等を定期的に開催し、業務の点検を行う。 ②-2 成績処理や調査書発行などの業務を確立し、新しい成績処理システムでの運用を円滑に行う。 ③長期休業期間中の学校閉庁日の設定。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。	①-1 実践的な防災訓練を行う。PTA と連携して登下校指導や１年生を対象としたスケアード・ストレイトを実施する。 ①-2 日頃の清掃活動に加えて、環境問題をテーマに様々な課題について生徒に考えさせ、生徒環境整備委員等の活動を活発化させる。 ②-1 グループ会議、学年会、教科会等の設定された会議だけでなく、日常的に連絡や相談を行う風通しのよい職場づくりを行う。 ②-2 事故防止研修会を毎月実施する。啓発資料のチェックリストを活用して職員の意識を高める。会計担当者の研修会を行う。 ②-2 成績処理支援システムの運用を徹底する。生徒情報を日々電子的に管理し、出席簿等で管理する状況から移行する。 ②-2 学校全体で正確な点検に努め、組織的な体制で臨む。 ③学校閉庁日の完全実施をめざす。夏季休暇の消化、年次休暇の取得推進を図る。	①-1 実践的な防災訓練が実施できたか。スケアード・ストレイトの実施により、生徒の安全意識が高まったか 。 ①-2 校内の美化が保たれ、生徒を中心とした古紙回収・再利用等の活動に取り組めたか。 ②-1 職員間の情報共有を適切に行うことができたか。事故防止に対する当事者意識の向上とヒヤリハットを含めた事故防止はゼロにできたか。適切な会計処理ができたか。 ②-2 成績支援システムの出欠管理を通じて、生徒の出欠状況等の情報が日々電子的に管理されたか。 ②-2 教科・グループ・学年が協働した正確な対応ができたか。 ③学校閉庁日の完全実施、夏季休暇の平均取得日数が４日以上となったか。	①-1 生徒防災委員による実践的な防災訓練が実施できた。スケアード・ストレイトを実施し、生徒の安全意識が高まった 。DIG 訓練を行い、災害時をイメージすることができた。 ①-2 PTA と連携して校内美化と生徒中心に古紙回収の活動ができた。 ②-1 適切な私費会計処理が行えた。会計専用のクリアファイルの活用により、仕事の見える化が進んだ。 ②-2 成績処理支援システムで日々の生徒情報を電子的に管理し、教員間の情報理の電子化を進めた。 ③学校閉庁日を計画通り設定できた。職員の夏季休暇取得は、ほぼ５日となった。	①-1 様々な形態の防災訓練を計画し、生徒主体の実施をさらに進めたい。 ①-2 引き続き、校内美化と古紙回収に取組み、ゴミの減量につなげる。 ②-1 職員間で声を掛け合い、引き続き適切な会計処理と事故防止に努める。 ②-2 電子化に伴い、集計作業の効率化が進み成績処理業務等が円滑に行えた。出席簿等、紙の管理から電子管理への移行を進める。入学者選抜業務に係る関係データの運用等、デジタルデータの一元管理が進んだが、更にその定着を図り、スケジュール管理を正確に行う。 ③職員の年間有給休暇取得を推進する。	①-1 防災教育は、今後さらに必要性が高まる。地域と連携した訓練を実施できるとよい。 ②-2 業務の効率化、ペーパーレスは、職員の働き方改革につながる。	①-1 防災訓練を計画的に実施できた。 ②-1 事故防止に努めた会計処理が行えた。 ②-2 電子管理を進め、学籍管理が円滑になった。 ③職員の休暇取得を進めることができた。	①-1 地域、PTA 等、外部の協力をもって、より実践的な防災訓練を計画する。 ②-1 より生徒主体の環境整備活動を計画する。